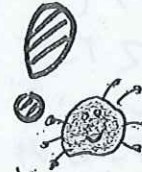


冬でも大活躍の びせいぶつくん



ゴミ問題を考える住民の連合会・宗像広報係

まほうのはこ

ダンボールコンポストだより

第11号

- ① 生ごみを入れるのを一日一回にします。
- ② 基材の中央部を使うことで分解熱が集中します。

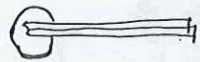
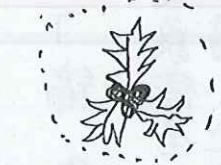
「冬は分解が遅いのですか？」
 という質問がよくきかれます。冬には、冬はお休みしています。ご安心ください。ダンボールコンポストの中には、温度で働く微生物がたくさん存在しています。冬は、温度が低く、分解は遅くなります。でも、気にする方は、下のことを試してみてください。

どこにでもいる微生物

極限環境にも微生物は生息しています。南極の氷の上にも、地表の1000倍もの気圧にさられる1万メートルの深海の海水にも、煮えたぎる温泉の湧き水にも、空を飛ぶ塵にも、それぞれの環境に適応した微生物が生息しています。

『微生物ってなに？～もっと知ろう！』
 身近な生命～日より引用
 日本微生物生態学会教育研究部会 2007

- ③ 生ごみは、大きき切ったものを、小さく切ります。
- ④ 新聞紙、朝刊、古紙、紙屑、紙の切れ端、紙の厚さを調整して、水分を吸収し、保温に役立つ。



《相談会》

- 1月11日(水) (終了)
 - 2月8日(水)
 - 3月8日(水)
- 珂康コミセン 10:00~12:00
 申し込み不要。いつでもどうぞ！

ダンボールコンポストとは、ダンボール箱の中に基材を入れて、微生物の力で生ごみを分解し堆肥化するものです。1基で3~6カ月、約50kgの生ごみが処理できます。

お問い合わせ 32-7241 川原

